

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立玉幡小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語・算数ともに、平均正答率は全国をやや下回っています。
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」の「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめる」ことが全国平均を上回っており、日常の取り組みの中で一人一人が自分の考えをもち、子ども同士や教師対子どもの対話を通した学習活動を行ってきた成果がみられます。一方で「書くこと」について自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫することに課題がみられます。
- ・算数では、表やグラフから分かることを見つけたり条件に合う数を読み取ったりする「データの活用」が全国平均を上回っていました。一方で、「図形」については、多角形の性質や意味の理解およびそれらを応用して考えることに課題が見られました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「学級では学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」が全国よりも数値が高いです。「英語の勉強が好き」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」という子どもの割合も全国よりも高いです。
- ・課題となる項目
「読書が好き」と回答する割合が全国より低いです。また、「本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に行く」回数も少なく、「ほとんど行かない」と回答する割合は全国よりも高いです。
「自分には、よいところがある」と回答する子どもの割合が全国より低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・自分の考えを伝え深め合う場面を、様々な教科や学校生活のなかで取り入れて、「対話的な学び合い」を継続していきます。
- ・話し合いを大切にしながら、人に伝えることを意識して文章に表現できるよう、自分の意見や考えを書く場面を計画的に設定して、子どもたちの書く力の向上を図っていきます。
- ・学校図書館からの啓発活動や読書指導をこれからも継続して行っていきます。
- ・具体物の操作や教材を工夫しながら児童の実態に即した授業を進め、数学的思考力の定着や向上を図っていきます。
- ・課題や諸活動への取組を、振り返り認め合う機会をもち、達成感や自己肯定感の向上を図っていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・子どもが話しているときには積極的に話を聞いて、親子で共有できる時間をつくりましょう。
- ・子どもの生活リズムを把握し、必要に応じて時間の過ごし方のアドバイスをしたり、家の約束を決めて守れるように見守ってください。
- ・宿題や自主学習への取組の様子を把握するとともに、時間や場所など学習習慣や学習環境づくりに協力してあげてください。
- ・子どもが読書をしているときには褒めてあげて、一緒に読書をする時間を持ちましょう。